

継続検討品目群（工法）

提案品目名、品目概要は提案者からの提出資料から抜粋したものです。

平成21年度版

統合品目名	提案品目名	提案品目の概要	比較対象品目名	検討結果	
				分類	理由等
天然材料を用いた消波根固工法	消波自然石塊工法	主材料とした自然石を外側に配置しアンカー取付後、コンクリートを打設する消波工法です。自然石は型枠を兼用しています。品質管理は形状寸法と質量管理になります。	コンクリート消波根固ブロック工法	継続検討 QSC	E ○本品目については、統合品目「天然材料を用いた消波根固工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 ①期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 ・コンクリートの使用量削減によるCO2削減量の見通しが不明確。 ・石材の運搬によるCO2排出量の増加が懸念される。 ②品質確保について不確実性が残ると考えられる。 ③特定調達品目に指定することにより本品目の普及を図ることができるか、継続的な検討が必要と考えられる。 ・石材採取地点と利用地点の距離などにより、供給に制限が生じることが懸念される。 ④比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
	自然石塊被覆工法	主材料とした自然石を外側に配置しアンカー取付後、コンクリートを打設する被覆工法です。自然石は型枠を兼用しています。品質管理は形状寸法と質量管理になります。	コンクリート消波根固ブロック工法	継続検討 QSC	E ○本品目については、統合品目「天然材料を用いた消波根固工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 ①期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 ・コンクリートの使用量削減によるCO2削減量の見通しが不明確。 ・石材の運搬によるCO2排出量の増加が懸念される。 ②品質確保について不確実性が残ると考えられる。 ③特定調達品目に指定することにより本品目の普及を図ることができるか、継続的な検討が必要と考えられる。 ・石材採取地点と利用地点の距離などにより、供給に制限が生じることが懸念される。 ④比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
天然材料を用いた護岸工法	アンカー式空石積工法	「自然石」と「ストッパーパネル付きのアンカー材」を固着した製品（アンカー付自然石）に裏込材を充填しながら積み上げる急勾配護岸工法です。現地自然石を再利用してアンカー付自然石の製作が可能です。品質管理は、製品の形状寸法、自然石とアンカー材の結合部強度となります。	コンクリートブロック積（張）工法	継続検討 QSC	E ○本品目については、統合品目「天然材料を用いた護岸工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 ①期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 ・コンクリートの使用量削減によるCO2削減量の見通しが不明確。 ・石材の運搬によるCO2排出量の増加が懸念される。 ②品質確保について不確実性が残ると考えられる。 ③特定調達品目に指定することにより本品目の普及を図ることができるか、継続的な検討が必要と考えられる。 ・石材採取地点と利用地点の距離などにより、供給に制限が生じることが懸念される。 ④比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
	自然石固着金網工法	自然石と金網を特殊製法により一体化した製品（自然石固着金網）を河川や池の法面に敷設し覆土を行う緩勾配護岸工法です。治水安全性を確保しながら水辺の生態系向上に寄与が可能です。品質管理は製品の形状寸法と重量管理になります。	コンクリートブロック積（張）工法	継続検討 QSC	E ○本品目については、統合品目「天然材料を用いた護岸工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 ①期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 ・コンクリートの使用量削減によるCO2削減量の見通しが不明確。 ・石材の運搬によるCO2排出量の増加が懸念される。 ②品質確保について不確実性が残ると考えられる。 ③特定調達品目に指定することにより本品目の普及を図ることができるか、継続的な検討が必要と考えられる。 ・石材採取地点と利用地点の距離などにより、供給に制限が生じることが懸念される。 ④比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
泥水循環型地中連続壁工法	GSS工法（ジェコンシルシステム工法）	ソイルセメント柱列式連続壁工法（SMW工法）とは、セメント系懸濁液を削孔混練装置の先端から注入し、原位置土と混合攪拌してソイルセメントを造成して連続した止水壁を構築する工法である。 従来工法では、注入量に相当する産業廃棄物が発生するが、GSS工法は、発生する泥土をリサイクルプラントにて分級処理して液状分を抽出し、セメント系懸濁液材料の大半を再利用することにより、産業廃棄物の処分量とセメント等仕様材料を低減できる技術である。	ソイルセメント柱列式連続壁工法	継続検討 (C)	S ○本品目については、統合品目「泥水循環型地中連続壁工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 ①特定調達品目に指定することにより本品目の普及を図ることができるか、継続的な検討が必要と考えられる。 ○上記課題を解決した後に、コスト面について普及とともに比較対象品と同程度になる見込みを確認する必要があります。